

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

西本雅人

2022年度の「THE TEACHER OF THE YEAR」を頂き、ありがとうございます。選んでくれた学生のみなさん、そして支えて頂いた教員のみなさま、この場を借りてお礼申し上げます。振り返ってみると今年には自分にとって充実した年になりました。査読論文が2本掲載が決まり、准教授に昇格していただき、研究室の学生が建築アイデアコンペに6作品受賞し、そして第一子が誕生しました。そして今年の締めくくりはこの賞を頂くことができ、嬉しいです。今回は、今年度、授業関係で取り組んできたことをお話しさせていただきます。

「実務者の講演を企画」

中国で保育施設の設計を行っている日比野設計の佐々木真理さんに学生向けに授業をしていただきました。海外で設計することは大変だと思いますが、佐々木さんは「苦勞することよりも楽しいことの方が多い」と話しており、学生たちに向けて「コロナで海外には行きにくいと思うかもしれないけど、海外で活躍することを目指してほしい」とエールを贈られていました。講演後には学生から質疑がたくさん（授業よりも何倍も多い！）あがり、「生き方がかっこいい」との感想も聞かれました。今後もこのような企画は定期的に行っていきたいと思います。また、僕の研究室のホームページでは、建築の講演情報をお知らせするページも作成して、いろいろな方の建築の話の機会を提供するようにしました。更新頻度が低いので、来年度以降では情報提供しやすい形を探していきたいと思います。

「学習環境の改善に向けた取り組み」

現在、233L教室やエクセルルームの改修工事を行なっています。これは工学部100周年に関連する事業で、その計画に建築・都市環境工学科の先生方と参加してきました。最近、工事現場を研究室の学生たちと見学に行ったのですが、想像以上に良い仕上がりになってきました。3年ほど前から企画が進み、学生たちからアイデアを募集して、福井大学の卒業生や地元的设计事務所、施工会社、環境整備課、教務課の方々のご協力を得ながら、完成まであと少しのところまで来ています。来年には記念施設の工事も始まります。今後は事業の説明や現場見学なども企画していき、学生たちも工学部100周年事業に関わっていけるようにしていきたいと考えています。

「来年度以降の課題」

来年度は学生のプレゼン技術の向上の取り組みを行っていきたくて考えています。建築系の学生はイラストレーターやフォトショップ、アーキキャド、ルミオンなどの複数のソフトを使いこなしながらプレゼンを行います。ただ、それらのソフトの使い方も教えて欲しいと学生からの要望がありましたので、応えていきたいと思っています。

学生たちとのコミュニケーションをとりながら、どんな学習を望むのかを把握して、今後も自身の授業方法や取り組みを改善していきたいと思います。